

第 6 回国際細胞老化研究会(ICSA)学術会議

開催趣意書・寄付募集要項

第 6 回国際細胞老化研究会(ICSA)学術会議実施委員会

実施委員長 原 英二

(大阪大学 微生物病研究所 遺伝子生物学分野)

第6回国際細胞老化研究会(ICSA)学術会議

「細胞老化研究の新時代：加齢と癌の制御への挑戦」

6th International Cell Senescence Association (ICSA) Conference

- New era in cellular senescence research: challenges toward controlling aging & cancer -

趣旨：

近年、先進国では寿命の延長に伴いがんを含む様々な老化関連疾患の発症率が上昇し、医療費や介護費の増加など深刻な社会問題になりつつあります。特に少子高齢化が著しい日本ではこの問題は極めて深刻であり、迅速な対策が求められています。従来、老化関連疾患の対策はそれぞれの疾患毎に個別に行われてきました。しかし、そのような対処療法的なアプローチだけでは効果は限定的であり、老化の進行そのものを遅らせることで健康寿命を延伸させるような抜本的な対策が必要になっております。そこで本研究会では、近年、老化関連疾患の発症原因の一つであることが明らかになってきた細胞老化の仕組みと役割の解明を通して、老化関連疾患の克服につながる方法の開発を目指す世界中の研究者が集い、最先端の研究成果を発表し合う場を提供することを目的として2015年より年1回学術集会を開催しております。この度、第6回目の開催となる2020年には日本で開催したいとの要望が強く、本研究会の会長である Dr. Manuel Serrano (バルセロナ生物医学研究所)より大阪大学の原英二教授が依頼を受け、大阪市で11月に開催する予定でしたが、この度、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み、実施委員会のメンバーと協議した結果、現時点で2020年11月の状況を判断するのは大変困難であるため開催を延期すべきとの結論に至り、2021年6月に延期開催する運びとなりました。

本学術集会では一般参加に加え関連分野で世界トップレベルの実績を有する研究者の方々に招待演者として講演を頂き、それぞれの研究の現状のみならず、問題点や将来展望等についてもご議論いただくことで老化研究の更なる発展に資することが出来ればと願っております。本研究会の目的は健康寿命の延伸につながる研究を加速することであり、その実現のためには生物医学、薬学分野のみならず、栄養学、機械工学、AIなど実に多岐にわたる分野との協働が必要になってくると予想されます。このため、大学や公的研究機関に所属する研究者や学生のみならず、企業に所属する研究開発担当者等の積極的な参加を促すことで国際社会に貢献できる会議にしたいと考える次第です。

第6回国際細胞老化研究会(ICSA)学術会議実施委員会

実施委員長 (事務局長) 原 英二 (大阪大学 微生物病研究所 遺伝子生物学分野 教授)

実施副委員長 南野 徹 (順天堂大学 医学部 循環器内科 教授)

実施委員 (監事) 大谷 直子 (大阪市立大学 医学研究科 病態生理学 教授)

実施委員 (監事) 高橋 暁子 (がん研究所 細胞老化プロジェクト プロジェクトリーダー)

実施委員 杉本 昌隆 (国立長寿医療研究センター 老化機構研究部 室長)

実施委員 (ICSA 会長) Manuel Serrano (バルセロナ生物医学研究所 部長)

会議の概要

1. 会議の名称とテーマ

1) 会議の名称

第6回国際細胞老化研究会(ICSA)学術会議

6th International Cell Senescence Association (ICSA) Conference

2) 会議のテーマ

「細胞老化研究の新時代：加齢と癌の制御への挑戦」

New era in cellular senescence research: challenges toward controlling aging & cancer

2. 主催・併催機関などの名称

1) 主催：第6回国際細胞老化研究会(ICSA)学術会議実施委員会

2) 協力：日本政府観光局 JNTO（独立行政法人 国際観光振興機構）

3. 開催期間：2021年6月7日（月）－ 6月10日（木）（本会議4日間）

4. 開催場所：大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）12階

所在地：〒530-0005

大阪府大阪市北区中之島 5-3-51

電話：06-4803-5585

5. 主催責任者

国際細胞老化研究会運営委員会

委員長(会長) Manuel Serrano（スペイン・バルセロナ生物医学研究所 部長）

副委員長(副会長) Oliver Bischof（フランス・パスツール研究所 部長）

運営委員 Dorothy Bennett（イギリス・セントジョージ大学 医学部 教授）

運営委員 Clements Schmitt（ドイツ・ベルリン大学 医学部 教授）

運営委員 Manuel Collado（スペイン・サンチアゴコンポステイラ研究所 部長）

運営委員 Amanda McCann（アイルランド・ダブリン大学 分子医学研究所 教授）

運営委員 Lars Zender（ドイツ・チュービンゲン大学 医学部 教授）

運営委員 Romuald Binet（イギリス・ルードイッグがん研究所 部長）

実施責任者（第6回国際細胞老化研究会(ICSA)学術会議実施委員長）

原 英二（大阪大学 微生物病研究所 教授）

運営事務局所在地：565-0871 大阪府吹田市山田丘 3-1

電話：06-6879-4261

E-mail:ehara@biken.osaka-u.ac.jp

6. 日本開催の経緯

世界的な細胞老化研究の盛り上がりを背景に 2013 年に細胞老化研究の進展とその成果の応用を目指した研究会、European Cell Senescence Association（欧州細胞老化研究会）が設立され、Peter Adamas 博士（イギリス・グラスゴー大学教授）と Dorothy Bennett 博士（イギリス・セントジョージ大学 教授）を世話人としてイギリス・ケンブリッジで国際会議が開催された。その際、参加者より真に国際的な組織へと発展すべきとの強い意見が出され、2015 年に International Cell Senescence Association（ICSA：国際細胞老化研究会）へと改組された。ICSA 設立以来、Manuel Serrano 博士（スペイン・バルセロナ生物医学研究所 部長）が会長を務め、以下に示す通り、欧州や北米で毎年学術会議が行なわれてきた。第 6 回目は日本で開催したいという意見があがり、Manuel Serrano 会長から大阪大学の原 英二教授に日本で開催したい旨の依頼がなされた。

なお、この会議の開催状況は、以下のとおりです。

開催年	開催地	参加国数	参加者数	日本人参加者
2015 年 (第1回)	サンチアゴ・デ・コンポステーラ (スペイン)	24	219	5
2016 年 (第2回)	レホヴォト (イスラエル)	15	98	1
2017 年 (第3回)	パリ (フランス)	26	239	2
2018 年 (第4回)	モントリオール (カナダ)	25	230	12
2019 年 (第5回)	アテネ (ギリシャ)	27	232	5

7. 日本開催の目的と意義

国際細胞老化研究会 <https://www.cellsenescence.info/> は近年先進国を中心に罹患率が上昇している認知症、がん、動脈硬化などの加齢性疾患の発症原因の解明とその予防法・治療法の開発を目指した研究の進展を加速させるために設立された国際学術組織です。2015 年に設立以来、毎年 1 回、関連分野の研究者が集まり、最新の研究成果を報告し、議論し合う学術会議を開催してきました。第 1 回目は 2015 年 7 月にスペインのサンチアゴ・デ・コンポステーラにおいて、第 2 回目は 2016 年 7 月にイスラエルのレホヴォトにおいて、第 3 回目は 2017 年 5 月にフランスのパリにおいて、第 4 回目は 2018 年 7 月にカナダのモントリオールにおいて、第 5 回目は 2019 年 9 月にギリシャのアテネにて開催され、そして第 6 回目は大阪大学の原 英二教授を議長として大阪市で開催することになりました。本国際会議の開催は生命医科学領域の学術的な進展に寄与するのみならず、先進諸国が直面する加齢性疾患の対策に大きく貢献することが期待されます。また、これまでの会議を振り返ると、ヨーロッパやアメリカなど様々な国から多くの研究者が参加することが予想され、それらの研究者だけでなくその家族も大阪を訪れることが期待されます。このため、それら大勢の外国人に大阪、そして日本を知ってもらう良い機会となることが期待されます。

8. 開催計画の概要

1) 会議日程

<u>2021年 6月 7日 (月)</u>	午後	・ Registration ・ Welcome and introduction ・ Session 1 ・ Keynote lecture 1
	夜	・ Welcome reception (大阪府立国際会議場 12F)
<u>6月 8日 (火)</u>	午前	・ Session 2 ・ Session 3
	午後	・ Poster session 1 ・ Session 4 ・ Session 5 ・ Flash talk selected from Poster-1
<u>6月 9日 (水)</u>	午前	・ Session 6 ・ Session 7
	午後	・ Poster session 2 ・ Session 8 ・ Session 9 ・ Flash talk selected from Poster-2
<u>6月 10日 (木)</u>	午前	・ Session 10 ・ Session 11
	午後	・ Session 12 ・ Keynote lecture 2 ・ ICSA General Assembly
	夜	・ Gala Dinner (The Landmark Square Osaka)

2) 主要トピックス ■基調講演テーマ

細胞老化の基礎と応用

(1) 細胞老化の定義

(2) 健康寿命の延伸を目指した細胞老化の制御

■シンポジウムテーマ

細胞老化の分子メカニズム

細胞老化随伴分泌現象(SASP)

細胞老化の動物モデル

ヒトを対象とした細胞老化研究

細胞老化とがん

細胞老化と老化及び老化関連疾患

臨床応用を目指した細胞老化研究

3) 参加予定者

国内	100名
海外	150名
合計	250名

4) 参加予定国 25ヶ国・地域

日本・アメリカ・カナダ・イギリス・フランス・

イタリア・スペイン・イスラエル・ロシア・中国他

5) 会議使用言語

英語

寄附金を必要とする理由

第6回国際細胞老化研究会(ICSA)学術会議は海外から150名、国内100名、計250名の参加が予定され、準備運営等に関する総経費は25,000,000円が見込まれています。これらの諸経費は、本来参加登録費等でまかなうことが建て前ではありますが、年会費などの制度を設けておらず、研究会としての定期的な収入がなく、参加者が個人で負担できる額には限度があるため、総額25,000,000円から、参加費等自己負担額10,660,000円、諸収入等540,000円を除く不足額、13,800,000円を助成金及び諸企業及び諸団体からのご援助に頼らざるを得ないのが現状です。従いまして、下記の費用を会議に協賛する関係企業等からの寄附金にて充当したいと存じます。

収支予算（案）

単位：円

収支区分	金額
（収入）	
1. 自己負担金（参加登録費等）	10,660,000
2. 諸収入等	540,000
3. 助成金／寄附金等	13,800,000
収入合計	25,000,000
（支出）	
1. 会議準備費	1,550,000
2. 会議運営費	22,150,000
3. 展示会・企業セミナー等	600,000
4. 募金経費／事後処理費等	700,000
支出合計	25,000,000

寄附金募集要項

- (1) 募金の名称
第6回国際細胞老化研究会（ICSA）学術会議寄附金
- (2) 寄附金のお願い金額
1口 100,000円（1口以上からお願い致します。）
- (3) 募金期間
2018年（平成30年）7月13日～2021年（令和3年）6月4日
（注：会議開催日前の銀行営業日まで）
- (4) 寄附金の使途
第6回国際細胞老化研究会(ICSA)学術会議の準備並びに運営に関する費用に充当します。
- (5) 寄附金申込先
独立行政法人国際観光振興機構 MICE プロモーション部 交付金担当
〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-6-1 YOTSUYA TOWER 10 階
電話：03-5369-6015 ファックス：03-3350-3650 Email：cvnews@jnto.go.jp
- (6) 寄附金振込方法
別紙のフローチャート通りとなります。
別紙申込書を国際観光振興機構にお送りください。
寄附金申込書を受領し確認次第、国際観光振興機構より寄附金申込受理書を送付いたします。寄附金申込書受理書の受領後、指定口座番号にお振込ください。
- (7) 税法上の扱い
この寄附金は、特定公益増進法人である独立行政法人国際観光振興機構への寄附金として、税法上の一般寄附金とは別途に損金算入等の優遇措置が講ぜられます。